

## 科目「建築施工」学習指導案

学科・学年	建築科3年	科目名	建築施工	単位数/授業数	2単位/週2時間
教科書	建築施工	出版社	実教出版(工業376)	授業形態	一斉授業
副教材	自作ワークシートほか	使用教書	3学年建築科教室	指導体制	1名

### 1 単元名 第3章 3、4節 杭工事・地盤工事

2 単元の目標 建築物の基礎および地下部分を構築する際に必要とされる杭・地盤工事の概要を理解する。

### 3 単元の評価基準

A 知識・技術	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
・地面から下の工事に関する基礎的な知識や技術を身につけ、杭・地盤工事の意義や役割を理解しようとしている。	・地面から下の工事に関する基礎的な知識や技術をもとに、杭・地盤工事の概要を思考するとともに、実際に活用する際に適切な判断ができる能力を身につけようとしている。	・地面から下の工事に関する基礎的な知識や技術について関心を持ち、杭・地盤工事の概要の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身につけ、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。

### 4 単元の指導計画

	指導内容	学習活動	評価基準との関連			評価の方法等
			A	B	C	
第4校時	3節 1. 杭工法の種類 2. 既製杭工法 3. 場所打ちコンクリート杭工法	杭工事の目的や種類、既製杭、鋼管杭について学習する。埋め込み工法（プレボーリング拡大根固め工法、中掘り拡大根固め工法）の特質や施工手順を理解する。		○	○	・ノートをまとめる
		回転貫入工法特質や施工手順を学習する。 既製杭工法のまとめ。		○	○	・小テスト ・既製杭工法について特徴（環境への配慮）を考えさせる
		場所打ちコンクリート杭工法の流れを把握した上で、アースドリル工法、オールケーシング工法、リバーササーキュレーションドリル工法の手順を学習する。		○	○	・ノートをまとめる ・場所打ちコンクリート杭工法の特徴を考えさせる
		場所打ちコンクリート杭工法のまとめ。 既製杭工法と場所打ちコンクリート杭工法の違いをグループで話し合いまとめる。		○	○	・小テスト ・ワークシート
第2校時	4節 地盤工事 1. 地盤工事の種類 2. 地盤改良工事	地盤工事の種類（砂利・砂地盤、割石地盤、地肌地盤）の特徴や捨てコンクリート地盤の目的を理解する。	○		○	・ノート（レポート）をまとめる ・ワークシート
		地盤改良工事の目的や工法（置換工法、固化工法、締固め工法）について理解する。	○		○	・ノートをまとめる ・ワークシート

### 5 単元のルーブリック

A+ (高水準)	A (満足できる)	B (概ね満足できる)	B- (努力を要する)	C (相当な努力が必要)
(Aの水準に加えて) ・主体的かつ意欲的に他者と協働し、内容について論理的にわかりやすく他者に説明、発表することができる。	(Bの水準に加えて) ・主体的かつ意欲的に取り組むとともに、考察した内容を発表することができる。	・地面から下の工事（杭工事・地盤工事）に関する基礎的な知識を身につけ理解することができ、それぞれの工法、流れ、特徴を理解しまとめることができる。	・地盤から下の工事（杭工事・地盤工事）に関する基礎的な知識を理解することができる。	・B-の水準に達しない。  [努力を要す生徒への対応] ①ワークシートや小テストの見直しをさせる。 ②理解して欲しい内容について、補講を行う。 ③単元テストを再度行う。